

第2部 活動報告

1. 活動記録

2023年度において高等研センターが行った活動は以下のとおりである。

| | | |
|-------------|---------------------------|----------------|
| 開催件数 | 研究会(講演会、シンポジウム含む) | 23件 |
| | 北大道新アカデミー | 1件(全8回) |
| 刊行物 | 高等法政教育研究センター年次報告書(2022年度) | 2023年7月(WEB公開) |
| 高校・中学等の訪問対応 | 訪問受入:道内4校 | |
| | 出張講義:道内1校、道外1校 | |

2023 年度に開催した 講演会・シンポジウム・ワークショップ一覧

| 開催日 | 内容 |
|--------------|--|
| 4月15日 (土) | <p>シンポジウム「高度情報社会の法過程：中国法の実践から」</p> <p>日時：2023年4月15日(土) 13:30～17:30 場所：北海道大学人文・社会科学総合教育棟 409号室 (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 趣旨説明：郭薇(北海道大学大学院法学研究科准教授) 報告：「情報化社会におけるテクノロジーのバックラッシュとその法的課題」陸宇峰(華東政法大学法治戦略研究院教授) 「デジタル化する中国社会のガバナンスと法」 季衛東(上海交通大学凱原法学院教授) コメント：徐行(北海道大学大学院法学研究科准教授) 主催：北海道大学法理論研究会 北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター 共催：「体制転換と法」研究会</p> |
| 4月15日 (土) | <p>(共催)北大刑事法研究会(特別例会)</p> <p>日時：2023年4月15日(土)14時～ 場所：北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 3階 302教室 開催形式：ハイブリッド形式 《学術講演》「被収容者の自死を求める権利」 (Recht auf assistierten Suizid im Strafvollzug) 報告者：ヘニング・ローゼナウ氏(ハレ大学法学部教授) 通訳：小名木 明宏氏(北大教授) 主催：北海道大学刑事法研究会 共催：北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| 4月27日 (木) | <p>オンラインブックトーク 清水潤著『アメリカ憲法のコモン・ロー的基層』</p> <p>日時：2023年4月27日(木) 12:00～13:00 開催方法：Zoomを利用したオンライン・ミーティング 司会：大林啓吾(慶應義塾大学教授) 概要説明：清水潤(白鷗大学准教授) コメント[憲法の視点から]：石塚壮太郎(日本大学准教授) コメント[英米法の視点から]：会沢恒(北海道大学教授) 主催：慶應義塾大学大林研究室 共催：北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>5月27日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例会 「郭舜著『国際法哲学の復権』(弘文堂、2022年)合評会」</p> <p>日時:2023年5月27日(土)14時～ 場所:北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W401 教室 (Zoom を利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) テーマ:郭舜著『国際法哲学の復権』(弘文堂、2022年)合評会 報告者:宮田賢人氏(小樽商科大学商学部准教授、法哲学) 上原賢司氏 (藤女子大学文学部准教授、国際政治・グローバル正義論) 西 平等氏(関西大学法学部教授、国際法) リプライ:郭舜氏(早稲田大学法学学術院教授、法哲学) 主催:北海道大学法理論研究会 共催:北海道大学国際法研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>7月1日 (土)</p> | <p>ワークショップ「体制転換と法」研究会 合評会:篠田優『社会体制と社会権: ロシアの体制転換と住宅・土地・社会保障』(有信堂高文社、2023年)</p> <p>日時:2023年7月1日(土)14時30分～18時00分 場所:北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W401 教室 (Zoom を利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) コメンテーター: 渋谷謙次郎(早稲田大学教授) 笹沼 弘志(静岡大学教授) 加藤 智章(北星学園大学教授) 川久保 寛(北海道大学准教授) 応答者:篠田 優(北星学園大学教授) 共催:「体制転換と法」研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>7月1日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例研究会 「システムの中の怪獣たち ——社会的立憲主義から見たデジタルプラットフォームと国家」</p> <p>日時:2023年7月1日(土)14時00分～ 場所:北海道大学 人文社会科学総合教育研究棟(W棟)W403 室 (Zoom を利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 題目:システムの中の怪獣たち ——社会的立憲主義から見たデジタルプラットフォームと国家 報告者:見崎 史拓 氏(名城大学法学部准教授) 主催:北海道大学法理論研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>7月3日 (月)</p> | <p>講演会「ウェブサービスとルールメイキング ——二次創作と生成 AI から」</p> <p>日時:2023年07月03日(月)10時30分～12時 場所:北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院メディア棟105演習室 (オンライン・ミーティングとのハイブリッド型での開催) 演題:「ウェブサービスとルールメイキング ——二次創作と生成 AI から」 講演:菱山豊史氏 (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社法務担当) 主催:北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 共催:北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>7月16日 (日)</p> | <p>共催セミナー「最近の企業関連法制の動向と課題」</p> <p>日時:2023年7月16日(日)14時00分～17時30分 場所:北海道大学 人文社会科学総合教育研究棟 W203室 テーマ:「最近の企業関連法制の動向と課題」 第1報告 Yang Mansik氏(DANKOOK Univ.教授) 「韓国におけるESG現況と課題」 コメンテーター:武田智行氏(御園総合法律事務所弁護士) 第2報告 ROH Hyukjoon氏(Seoul National Univ.教授) 「韓国での株式買取請求権の現況と改善論議」 コメンテーター:野田耕志氏(北海道大学教授) 第3報告 KIM In Hyeon氏(Korea Univ.教授) 「Hanwhaの大型造船海洋の引受に関する法的争点」 コメンテーター:南健悟氏(日本大学教授) 共催:韓国経営法律学会、北海道大学民事法研究会、 法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>7月22日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例研究会 「子どもと大人の境界線をめぐる法社会学」</p> <p>日時:2023年7月22日(土)14時00分～ 場所:北海道大学法学部棟3階315号室(高等教育研究センター会議室) (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 題目:子どもと大人の境界線をめぐる法社会学 報告者:齋藤 宙治氏(東京大学社会科学研究所准教授) 主催:北海道大学法理論研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>8月4日 (金)</p> | <p>法理論研究会特別会 「統一ドイツの家族政策と法」</p> <p>日時:2023年8月4日(金)15時00分～ 場所:北海道大学 人文社会科学総合教育研究棟(W棟)W101室 (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 題目:統一ドイツの家族政策と法 報告者:大西 楠 テア氏(専修大学法学部教授、ドイツ法) 主催:北海道大学法理論研究会 共催:北海道大学民事法研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>8月5日 (土)</p> | <p>「女性研究者のワーク・ライフ・バランス」研究会 第二回研究会「中国清代における親族間扶養と国家法」</p> <p>日時:2023年8月5日(土)11:00~12:30 場所:北海道大学札幌キャンパス法学部棟315 センター会議室(Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 講演:「中国清代における親族間扶養と国家法」 赤城 美恵子 氏(中央大学法科大学院教授) 主催:「女性研究者のワーク・ライフ・バランス」研究会 共催:北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>8月7日 (月)</p> | <p>「来たれ、リーガル女子！ ～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう！」</p> <p>日時:2023年8月7日(月)13時15分~16時30分 場所:北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟) 対象:中学生・高校生・保護者・教員 プログラム: 第1部 パネルディスカッション(定員100名) 「女性法律家(弁護士・裁判官・検察官)の働き方」 第2部 進路説明(定員100名) 第3部【中高生・学生向け】グループセッション 定員50名 【保護者・教員向け】説明会/Q&A 主催:北海道大学大学院法学研究科、北海道大学法科大学院、 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター 企画・運営:札幌弁護士会 後援:北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道新聞社、北海道弁護士連合会、函館弁護士会、旭川弁護士会、釧路弁護士会</p> |
| <p>9月22日 (金)</p> | <p>(共催)公法研究会 「戦後日本公法学の成立と京都学派国際法学 ー 占領初期における『多重骨折』」</p> <p>日時:2023年9月22日(金)13時より 場所:北海道大学 法学部棟321室(※ハイブリッド開催) 報告者:小畑郁先生(名古屋大学、国際法) 題目:戦後日本公法学の成立と京都学派国際法学 ー 占領初期における「多重骨折」 主催:北海道大学公法研究会 共催:北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>9月30日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例研究会／「体制転換と法」研究会共催 「東アジアの法と哲学を日本で論じるということ」 「法の継受における『国体』の役割と課題」</p> <p>日時:2023年9月30日(土)14時00分～ 場所:北海道大学法学部棟3階315号室(高等教育研究センター会議室) (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 〔第1報告〕 題目:東アジアの法と哲学を日本で論じるということ 報告者:菅原 寧格氏 (北海学園大学法学部教授、法哲学・法思想史) 〔第2報告〕 題目:法の継受における「国体」の役割と課題 報告者:森元 拓氏 (東北公益文科大学公益学部教授、法思想史・公法学) ※学会プレ報告 主催:北海道大学法理論研究会、「体制転換と法」研究会 北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>10月14日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例研究会 「裁判員評議のコミュニケーションを分析する: 会話分析から何がわかるか?」</p> <p>日時:2023年10月14日(土)14時00分～ 場所:北海道大学 法学部棟3階321号室 (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 題目:裁判員評議のコミュニケーションを分析する: 会話分析から何がわかるか? 報告者:北村 隆憲氏(東海大学法学部客員教授) 主催:北海道大学法理論研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>11月7日 (火)</p> | <p>若手研究ランチョン:法学・政治学の最前線 第1回 前田亮介氏 「横浜正金銀行の3つの顔(1879-1954) ——日本政治外交史の観点から」</p> <p>日時:2023年11月7日(火)12時10分～13時30分 場所:北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟W409室 題目:「横浜正金銀行の3つの顔(1879-1954) ——日本政治外交史の観点から」 報告者:前田 亮介氏 主催:北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>12月16日 (土)</p> | <p>法理論研究会 「裁判官による『結果志向の法解釈』とその法的正当化 ——行政判例を素材として」</p> <p>日時:2023年12月16日(土)14時～ 場所:北海道大学法学部棟3階315センター会議室 (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) テーマ:裁判官による「結果志向の法解釈」とその法的正当化 ——行政判例を素材として 報告者:米田雅宏氏(北海道大学大学院法学研究科教授、行政法) 主 催:北海道大学法理論研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>12月23日 (土)</p> | <p>ワークショップ「体制転換と法」研究会 日 時:2023年12月23日(土)14時～18時 場 所:北海道大学法学部棟3階315センター会議室 第1報告:伊藤知義(中央大学教授) 「トランスジェンダーと性別・名前変更に関する ハンガリー憲法裁判所判決」 第2報告:許仁碩(北海道大学助教) 「権威主義体制における台湾治安機関の海外工作 —日本の台湾人権運動への対策を中心に」 共 催:「体制転換と法」研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>2024年 1月20日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例研究会 「リーガリティ・法パラダイム・法伝統」 日 時:2024年1月20日(土)14時～ 方 法:Zoomを利用したオンライン・ミーティング テーマ:リーガリティ・法パラダイム・法伝統 報告者:長谷川晃氏(北海道大学名誉教授、法哲学) 主催:北海道大学法理論研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>2月17日 (土)</p> | <p>法理論研究会定例研究会 「1950年代の『婦人公論』と川島武宜 —法情報の受容理論の構築に向けて—」 日時:2024年2月17日(土)14時～ 場所:北海道大学法学部棟3階315センター会議室 (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 題目:1950年代の『婦人公論』と川島武宜 —法情報の受容理論の構築に向けて— 報告者:郭 薇 氏(北海道大学大学院法学研究科准教授、法社会学) 主催:北海道大学法理論研究会、北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>3月7日 (木)</p> | <p>若手研究ランチオン:法学・政治学の最前線 第2回 馬場 香織 氏 「女性議員の増加と実質的代表:メキシコの事例からの示唆」 日時:2024年3月7日(木)12時00分～13時30分 場所:北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W409 室 題目:女性議員の増加と実質的代表:メキシコの事例からの示唆 報告者:馬場 香織 氏 主催:北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |
| <p>3月10日 (日)</p> | <p>高等研センター主催研究会 「ローマ喜劇に見る市民社会のエートス形成 — プラウトゥス『捕虜』の一解釈」 日時:2024年3月10日(日)14:00～17:00 場所:北海道大学 人文社会科学総合教育研究棟 W203 室 (Zoomを利用したオンライン・ミーティングとのハイフレックス) 報告:木庭 顕 氏 テーマ:ローマ喜劇に見る市民社会のエートス形成 — プラウトゥス『捕虜』の一解釈 参考文献:『誰のために法は生まれた』(朝日出版、2018年)第3章 主催:北海道大学法学研究科附属高等法政教育研究センター</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>3月23日 (土)</p> | <p>シンポジウム「来たれ、リーガル女子！@函館 ～弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう！」</p> <p>日時:2024年3月23日(土)13時00分～16時40分 場所:遺愛女子高等学校・講堂(函館市杉並町23-1) 対象:中学生・高校生・保護者・教員ほか 要参加申込:〆切2024年3月13日(水) 参加費:無料 プログラム: 第1部 パネルディスカッション 「法律家(弁護士・裁判官・検察官)の仕事と生活」 第2部 北大教員・現役学生による進路・学部説明 第3部 A【中高生限定】グループセッション 《定員30名》 B 進路・キャリア相談会 主催:北海道大学法学部・大学院法学研究科・法科大学院、高等法政教育研究センター 後援:学校法人 遺愛学院 遺愛女子中学校・高等学校、函館弁護士会、札幌弁護士会、北海道弁護士会連合会、北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部 協力:函館弁護士会</p> |
|----------------------|---|